

まちひとしごと

Vol. 33

みっけ かなづか みずか
Mikke 金塚 瑞夏 さん

この場所を新しい発見の きっかけに



「みっけ！」何かを見つけた時のうれしい声が、たくさん聞かえてくる魅力ある場所を作りたい。金塚瑞夏さんは、そのような思いを店名に込め、今年2月、駅前通り近くに『Mikke』を開店した。

彼女は、中学校卒業後に町を離れ、札幌の高校、東京の大学に進学、卒業後は都内の広告代理店に就職したが、大好きな地元をもっと盛り上げたいと昨年12月にこの町に戻った。

「高校の寮生活で寮の代表の一人として、行事の企画や運営をし、広告代理店の仕事では商品の

魅力を発信する楽しさを経験しました。それを生かして、この町の魅力を発信したいと思い、地元に戻ることを決めました」

『Mikke』を開店した彼女が大切にしているのは、会話が生まれる環境づくりだという。いろいろなものが楽しめるようにと、手作り雑貨と焼き芋の珍しい組み合わせで始めたこのお店で現在は、倶知安町産じゃがいもの焼き芋や、他店と共同で行うイベントなどで、町の魅力を発信している。

「就職活動で自己アピールに苦労した経験から、普段の何気ない会話や日常のさまざまな体験が大切だと感じ、そのための話題づくりをしたいと思います。ワークショップもその一つで、お店での体験が誰かと話すきっかけになっていければうれしいです」

人は誰かと会話をすることで成長し、魅力的になれると話す彼女は、開店以降、仕事などを通じて多くの人たちと知り合うことができたという。今後は、自身と関わる人同士の新たなつながりを作りたいと話す。

「このお店には、雑貨が好きな人や食べるのが好きな人など、さまざまな人が来店します。私もそ

うですが、新たな人と話すと、それまでにはない考え方に触れられ、新しい自分を見つけることができます。このお店がそのきっかけになりたいです」

十数年ぶりに地元での生活を始め、同世代の人が町外へ出てしまいがちになっていいると感じたが、その一方で、自身と同じく町を良くしたいと考える人はたくさんいるという。

「同じ思いを持つ人たちと一緒に、この町での生活を楽しみたいです。大人が楽しむ姿を、子どもたちが見て、こんな大人になりたい、こんな楽しい町なんだと思ってもらえたら、この町で暮らし続けたいと思う子どもが増えると思います」

開店してからの数カ月で、地元の人たちの温かさをあらためて感じ、これからもこの町で過ごしていきたいと話す。

「お店を出る時に、お客さんが言ってくれる『また来るね』のひと言が疲れを吹き飛ばしてくれます。これからも、その言葉が聞けるようなお店作りをしていきたいです」

※まちひとしごとは不定期連載です